

中部農業改良普及 センターだより

e-mail : CE0017@pref.iwate.jp

ホームページはこちら→



令和7年2月発行 第16号

◇中部農業改良普及センター

TEL : 0197-68-4464

◇西和賀普及サブセンター

TEL : 0197-82-3125

◇遠野普及サブセンター

TEL : 0198-62-9937

人物紹介

「令和6年度いわて農林水産躍進大会」にて

きくちやすあき

菊池靖晃さん（北上市）はじめ3経営体・4組織が表彰されました

令和6年12月20日、盛岡市内で「いわて農林水産躍進大会」が開催され、いわて農林水産振興協議会会長表彰において、管内から3経営体、3法人、1協議会が表彰されました。

今回は、「明日を拓く担い手賞（農業部門）」を受賞された、菊池靖晃さん（北上市）をご紹介します。

菊池さんは東京都の企業に就職後、岩手県にUターンし、平成24年に親元就農しました。現在両親と3人で水稻と小ぎくの複合経営を行っています。就農後は父親からの指導のもと技術研鑽に努めるとともに、農協青年部や北上4Hクラブでの活動を通じて、自身の技術力を高めています。

北上4Hクラブでは令和3年度から副会長、今年度からは会長を務め、クラブ活動の一環である地域イベント等に携わるほか、令和元年から始まった「北上ひまわり畑プロジェクト」に参画し、地域の魅力発信や耕作放棄地の有効活用等を通じ、地域活性化に貢献しています。

自身の栽培技術を磨きながら、様々な活動を通じて地域の若手農業者の中心的存在となっている菊池さんの今後の活躍が期待されます。



【いわて農林水産振興協議会会長表彰 管内受賞者一覧】

- 明日を拓く担い手賞（農業部門） 菊池 靖晃氏（北上市）
- 意欲ある担い手賞（農業部門） 菊池 陽佑氏・裕美氏（遠野市）
- 個性ある「産地づくり」賞（農業部門） 株式会社更木ふるさと興社（北上市）
- 活力とうるおいにあふれた「むらづくり」賞 高松第三地区ふるさと地域協議会（花巻市）
- いわて農林水産振興協議会設立20周年記念 特別功労賞
 - ・ 農事組合法人宮守川上流生産組合（遠野市）
 - ・ 有限会社鍋割川ユニオン（花巻市）
 - ・ 伊藤 淳氏、優子氏（北上市）



* 中森所長からコメント *

受賞された皆様、大変おめでとうございます。地域のけん引役として引き続き、地域農業の維持・発展に御協力をお願いいたします。



人物紹介

岩手県農業農村指導士 しょうじたもつ 東海林 保さん（西和賀町） 3月末で認定期間満了 これまでのご活動に感謝！

岩手県農業農村指導士とは、地域農業の発展と農村地域の活性化に意欲的に取り組んでいる優れた農業者を知事が認定するもので、令和6年11月末現在、県内で181名が認定されています。農業農村指導士の活動期間は65歳になる年の3月末までとされており、平成28年度に認定されました東海林さんは、今年度末で認定期間を満了されます。

東海林さんは、豪雪地帯の西和賀町において、「露地きゅうり+生しいたけ（菌床）」の複合経営で周年生産・出荷体制を確立されました。令和3年には、雇用条件の整備と経営規模拡大を実現するため、株式会社を設立され、これまで、地域の新規就農希望者への栽培技術指導や農業体験受入れなど、新たな担い手育成に向けて積極的に活動していただきました。

また、組織活動においては長年、農協部会の役員を歴任し、令和5年からは花巻農協野菜部会部会長として、産地の維持発展に向けた活動を続けてこられました。長い間、本県の農業振興にご尽力いただき、大変ありがとうございました。

※ 2月4日、岩手県農業農村指導士の認定期間満了に伴う感謝状贈呈式が行われました（東海林さんは都合によりご欠席）



食の匠・認定料理の紹介

花巻市 新漕和子さんが「食の匠」として誕生！



県では、永年受け継がれてきた地域の食文化や郷土料理等に関する知識・技術を受け継ぎ、その情報発信と次代への伝承ができる方を「食の匠」に認定しています。令和6年12月11日に盛岡市内で岩手県食の匠認定証書交付式が行われ、花巻市の新漕和子さんが新たに認定されました。認定料理は「ばくろう（香茸）おこわ」です。花巻市管内では3年ぶり24人目の認定となりました。

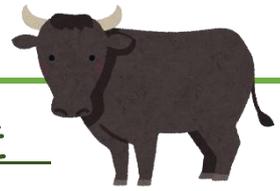


新漕さんの認定料理「ばくろう（香茸）おこわ」

乾燥したばくろうたけ（香茸）を水で戻して千切りにし、にんじん、油揚げを加えた醤油味のおこわです。素材の香りを活かすため、具材や調味料は最小限で作ります。ばくろうたけが大変高価で貴重な食材であることから、正月や人が大勢集まるような席で、特別なご馳走として振る舞われます。

ばくろうたけは、一般には香茸と呼ばれる大型きのこで、香りが良く、乾燥することでさらに香りが強くなり旨味も増します。





和牛飼養管理指導会を開催しました

(普及現地情報より抜粋)

遠野地域では、飼養管理技術の平準化を図るため、令和6年度から毎月の和牛基本登録審査会の際に「和牛飼養管理指導会」を開催しています。今年度は4月から12月まで9回開催し、毎回、地域の生産者20名ほどが参加しています。

12月は、農場の牛群構成を改めて見直してもらうため、和牛の持つ遺伝的能力を数値化した「育種価」の活用方法について説明しました。育種価を活用し、農場における高能力牛の後継牛を計画的に残すことで、牛群全体の改良を進めることができます。高能力牛の産子も市場での取引価格へ転嫁されることから、地域の市場評価への影響も大きくなります。近年では、遺伝子解析によるゲノム育種価の活用も拡大しています。

参加した生産者からは、「これまで見た目と血統のみで後継牛を残していたが、育種価も活用し高能力牛を増やしたい」と意欲が高まっています。遠野普及サブセンターでは、和牛産地力の強化に向け、今後も地域と連携して支援していきます。



県南地域大豆栽培研修会を開催しました

(普及現地情報より抜粋)

1月20日、県南広域振興局管内の大豆栽培に取り組む集落営農法人等を対象に「県南地域大豆栽培研修会」を開催しました。北上市内の会場を主会場に、遠野・一関・奥州地域の3会場をオンライン会議システムで繋ぎ、関係機関・団体を含め、約150名が参加しました。研修会では、県農業普及技術課農業革新支援担当から、高温障害等近年の大豆栽培の課題と次年度に向けた栽培管理等について講演をいただきました。

続いて、事例紹介として、農事組合法人二子中央営農組合の八重樫理事及び農事組合法人北上南部の梅田代表理事から、大豆栽培実践事例について、実際の作業動画(春から中部普及センターが撮影・編集してきたもの)を交えながらご紹介いただきました。

特色ある栽培管理や工夫を実践している事例発表者2名には、参加者から多くの質問が寄せられ、作業機械の調整のコツや、施肥・除草体系の作業の考え方等について活発な情報交換が行われました。発表者からは担い手の確保や難防除雑草への対応等の課題もあげられており、普及センターでは今後も関係機関・団体と連携し、経営体の収益力向上と持続的な経営の実現に向けて支援を継続していきます。



普及現地情報は「いわてアグリベンチャーネット」にも掲載しています。

過去の記事も閲覧できますので、是非ご確認ください。➡

